

中学校実践報告レポートについて

2021, 4, 16

石教研音楽部会 研究員

昨年度、石教研音楽部会より「授業実践報告」について提案し、様々な授業実践を交流することができました。今年度、音楽部会の中学校では、昨年同様にコロナウイルス対策をした上での授業実践の報告レポートを一人一枚作成していただき、それを部会員で交流する活動を行いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。つきましては、レポートの例を以下に載せさせていただきますので、レポートの準備をよろしくお願いいたします。

< 「授業実践報告」の書き方について >

- ・ 現在の実践内容を考慮し、一人一枚作成してください。
- ・ 選んだ題材の中から、実践できた内容の一部でも構いません。別紙の実践報告例を参考にし、学習内容や教師とのかかわり、留意点などを簡単にまとめて作成してください。
(A4 1枚)
- ・ 書き方でご不明な点がございましたら、北広島市立西の里中学校 中野までご連絡ください。
- ・ 締め切りは、後ほどご連絡いたします。

第3学年 音楽科授業実践報告 (例)

日時 2020年6月16日

生徒 石狩市立樽川中学校

3年2組 36名

指導者 中野いづみ

1、題材名「花」

2、実践内容

学習内容	教師との関わり ※指導の留意点
1、「花」の歌詞を考える。	<ul style="list-style-type: none">・七・五調の歌詞を考える・七音の言葉がどこで切れるかを考え、休符の位置を工夫する <p>※「花」の歌詞と強弱・リズムの関係について、事前に学習し、それを応用して活用させる。</p> <ul style="list-style-type: none">・どこが感動している箇所なのかを決め、そこに向けて盛り上がるよう強弱を考える
2、楽譜上に歌詞・休符・強弱を書き込む	

3、成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none">・言葉と音の関係を意識して、表現を工夫することができた。・歌詞の内容に合わせた強弱をつけることで、強弱表現の意図を知ることができた。	<ul style="list-style-type: none">・生徒によっては、歌詞を考えることに時間がかかってしまう。休符や強弱表現を考えるとといった音楽表現の工夫に重きを置いた活動にしていきたい。

第2学年 音楽科授業実践報告（例）

日時 2020年6月25日


児童 北広島市立緑ヶ丘小学校

2年2組 19名

指導者 高田 紅花

1、題材名「リズムやドレミとなかよし」

2、実践内容

学 習 内 容	教師との関わり ※指導の留意点
<p>1、全音符、2分音符、4分音符、8分音符について理解し、音の長さを比べる。</p> <div data-bbox="400 703 715 815" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;"> 写真など入れてもよい </div> <p>2、カードを見ながら、たたくリズムを体のいろいろなところで表現する。</p>  <p>3、4つのカードを並べて、連続で表現する。</p> <p>4、カードの順番を入れ替えて表現する。</p> <p>5、カードの数を増やし、順番を入れ替えて表現する。</p>	<div data-bbox="724 698 1455 824" style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのカードを提示し、4拍の中に音符がいくつ入るか確認し、手拍子で練習する。 ・全音符～両手を上にあげて4拍分キラキラポーズ ・2分音符～両手で肩を打って外側に広げる。 ・4分音符～4回手拍子をする。 ・8分音符～両手の指先で交互に8回机を軽く打つ。 <p>※ゆっくりのテンポから始める。リズムパターンを全員でたたけるようになったことを確認してから、次へ移る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4、5では児童に目隠しをさせ、カードの順番を入れ替える。 <p>※それぞれのリズムパターンが正しく表現できているか、確認する。</p>

3、成果と課題

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・4種類の音符をそれぞれ身体表現することで、音の長さの違いを意識づけることができた。 ・拍をしっかりと聞くようになり、拍にのってリズムを表現する児童が多かった。 ・目隠しをすることで「次のリズムは何だろう？」と期待しながら、意欲的に活動できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8分音符のリズムを急いでしまい、揃いにくかった。全体だけでなく、小グループでも練習し、正しく表現しているか確認しなければならなかった。

